

群馬県立板倉高等学校 学校評価一覽表 ① (令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①類型・コース制の特色を生かした教育課程に、生徒の80%以上が満足している。	①類型・選択科目の内容を生徒に十分説明し、生徒のニーズを達成する類型・科目選択ができるようにする。		A	A	91%の生徒・保護者が、肯定的な評価である。今後も、進路希望に即した教育課程を編成する。	A	A	92%の生徒、93%の保護者が好評価である。教育課程の点検・改善をしていく。	
		②チャレンジタイムⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容に、生徒の80%以上が満足している。	②それぞれの目標を示して、生徒一人一人が積極的に活動できる内容に工夫する。		A	A	91%の生徒が、好評価である。内容を検討し、生徒の実態に即したよりよいものにする。	A	A	90%の生徒が満足している。さらに、内容の吟味、実施方法を検討していく。	
		③「授業が分かりやすい」と、生徒の80%以上が答えている。	①研究授業・授業研究・授業アンケートを、計画的・効果的に実施する。		A	A	86%の生徒が肯定的な評価である。今後も「わかる授業」を再定義し、実践する。	A	A	定期的に授業研究等を行い、「わかる授業」の質の向上を目指す。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	②授業中に、「活動しながら学習したり、学習したことをもとにして考えることがある」と生徒の60%以上が答えている。	②生徒の興味関心を念頭におきながら、ペア学習やグループ学習を取り入れ、主体的で深い学びになるよう工夫する。		A	A	81%の生徒が好評価である。今後も、主体的・対話的で深い学びになるよう授業改善を図る。	A	A	ペア学習やグループ学習で取り扱う題材、取り入れる場面等を点検・評価し、生徒の参加意欲を高めていく。	
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①単位未修得者は、全生徒の5%以下である。	①到達目標を明確にし、授業と補習につながりを持たせ、学習の習慣化を図る。		/	/	生徒の実態に即した授業を展開し、生徒の学習の習慣化を支援する。	A	/	既習内容を自ら考えて活用する場面を設定し、学習に向かう姿勢の醸成を図る。
			②「基礎科目」によって基礎・基本の知識が身についたと感じている生徒が80%以上である。	②教科内で「基礎科目」の内容や授業形態について十分検討し、統一歩調で指導する。		A	A	生徒の87%・保護者の94%が肯定的な評価である。定着すべき基礎を精選し、指導する。	A	A	生徒の84%・保護者の97%が基礎が定着したと回答している。継続して支援をしていく。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	③資格取得に向けた指導に、生徒の80%以上が満足している。	③個々のレベルに応じて目標を設定し、より高い級の検定に挑戦できるよう学習させる。		A	A	87%の生徒が好評価である。さらに目的意識の高揚を図る。	A	A	今後も、資格取得による学習意欲の向上を図っていく。	
		5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	①規律が保たれ、学校が安全だと感じる生徒が80%以上である。	①学校全体で生徒の情報が共有できる体制を整え、モラル向上の行事を計画的に実施する。		A	A	87%の生徒が安全と認識している。生徒一人一人に配慮をしつつ、全体のモラル向上を目指す。	B	B	生徒・保護者・教職員が連携し、生徒のモラルの向上を目指していく。
			②基本的な生活習慣を身に付け、服装髪型などみだしなみがしっかりしている生徒が80%以上である。	②服装髪型指導の年間計画を立てて、分掌や学年と連携協力して実施する。		A	A	85%の生徒が服装髪型などのみだしなみがしっかりしていると認識している。統一見解のもと、服装髪型指導を継続する。	A	A	組織的な指導を行っているために、指導方法や指導体制を整えていく。
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	①いじめに関するアンケート年間5回、それに伴うフォローアップを年間5回実施する。	①未然防止、早期発見早期対応に向け、分掌と学年、スクールカウンセラーとの計画的な教育相談体制を図る。		/	/	年間計画に従って、実施中である。生徒の実態把握を絶えず行う。	A	/	予定通り実施することができた。早期発見、早期対応に努めていく。	
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	①欠席率を5%以下及び遅刻率を3%以下にする。	①保護者の協力を得ながら、段階的指導を行う。		A	/	欠席率2.8%、遅刻率1.6%であり、今後も指導を継続する。	A	/	欠席率4.7%、遅刻率2%であり、今後も、きめ細く、指導をしていく。
			②交通マナーやルールを遵守して、自分の身は自分で守るという意識を常に持っている生徒が80%以上である。	②交通安全教室、HJR等でルールを遵守させ、登下校指導を定期的に行う。		A	A	95%の生徒が、交通ルールを守り、安全な登下校を心がけている。今後も継続的に指導していく。	A	A	生徒・保護者に情報提供し、交通ルールの遵守やマナーアップにつながる手立てを考え、継続的に指導していく。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	③部活動の加入率を60%以上にする。	③学校全体で実態を把握し、活動しやすい環境に整備する。		A	A	77%の生徒が部活動に加入・活動している。参加しやすい雰囲気作りもしていく。	A	A	部活動に加入・活動しやすい環境を整え、部活動のより良い雰囲気醸成していく。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	①「板高進路ニュース」を月2回発行し内容の充実を図る。	①進路指導部が交代で担当し、計画的に発行する。		B	B	月2回の計画的な発行と生徒の進路意識を向上させる内容にする。	B	B	月2回の発行と進路状況や進路選択に必要な情報等内容の充実を努める。
			②「ドリコムプラン」に生徒の80%以上が満足している。	②計画に沿って実行し、事後の反省を生かして改善する。		A	A	95%の生徒が肯定的な評価である。	A	A	92%の生徒が満足している。今後も、点検・改善に努める。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	③生徒の将来の志望について理解している保護者が、70%以上である。	③保護者との関係を密にし、三者面談等で個々の進路に関する情報を提供する。		A	A	87%の保護者が生徒の将来の志望について理解している。三者面談等で情報を共有する。	A	A	生徒の進路希望に関する情報を収集・分析を行い、進路希望の実現を目指す。	
		10 ICTを活用した指導を行っていますか。	①自分の適性を理解している生徒が、60%以上である。	①適性検査や体験学習、面談等で自己理解を深める。		A	A	適性検査結果を用い、面談等を実施し、自己理解を深めるように指導する。	A	A	適性検査や学力テスト等の結果を活用した指導を充実させていく。
			②進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	②個々の目標とそれに応じた具体的な対策を示し、自ら学ぶ意欲を高める。		A	A	情報提供を積極的に行い、意欲を高める工夫をしていく。	A	A	生徒の進路希望をもとに、情報提供の方法等について、改善をしていく。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	③100%の生徒が、目標とした進路を実現できるようにする。	③入社試験や入学試験に合格するために面接練習や模試を計画的に設定する。		A	/	計画的・組織的な指導を通じて、生徒の積極的な参加を促す。	A	/	試験の傾向を踏まえ、全体指導と個別指導を適切に行う。	
		10 ICTを活用した指導を行っていますか。	①PTA総会、授業参観、学年保護者会等に参加している保護者が、のべ50%以上である。	①多くの保護者が参加できるような内容に設定し、情報を発信して参加を促す。		A	A	のべ200名の参加があった。今後も保護者が参加しやすい工夫や参加の呼びかけを行う。	A	A	保護者参加の各行事の内容・実施時期・保護者への連絡方法等を点検・改善する。
			②本校情報誌「板倉高校かわら版」を年2回以上発行している。	②「かわら版」やそれ以外の情報を広く発信する。		/	/	今年度の第1号を作成した。見やすさをさらに追求する。	A	A	第2号を作成中である。今後も改善を図っていく。
11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	③学校のwebページを月2回以上更新する。保護者メールも活用し、随時情報を発信する。	③学校行事やチャレンジタイム等の情報を発信し、教育活動を広く理解してもらえるように努める。		A	A	各行事の終了後に、速やかにホームページの更新をしている。	A	A	迅速な更新を継続し、本校の良さを伝える内容・方法を検討していく。	
		①80%以上の教員が、教科等の指導場面においてICTを活用し、個別最適な学び、協働的な学びを追究した授業を実践する。	①教科等の指導場面においてクローム・ブック等を積極的に活用し、学力・学習意欲面で多様な生徒に応じた授業展開を行う。		A	A	教職員間でクロームブックを積極的に活用した事例を研修などを通して共有し、さらに推進していく。	A	A	校内研修等を通じて、授業等でのクロームブックの活用事例を職員間で共有し、今後も推進を図る。	
11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	②校務分掌・学年等においてICTを活用した業務改善を進め、校務分掌・学年等が実施する諸調査等の60%以上をペーパーレスで実施する。	①校務分掌・学年等が実施する諸調査等をグループ・フォーム等を活用して実施し、分析結果を適切にフィードバックし、その後の業務改善に活かす。		A	/	校務運営委員会・職員会議などの会議資料をペーパーレス化、欠席連絡等もICT化した。アンケート等もGoogleフォームを使っている。今後もさらにICT化を進め、業務改善を進める。	A	/	新しい視点で業務の評価・点検を行い、ICT化を推進し、業務改善をしていく。	

